

平成29年度 第2回秋田県立図書館協議会（要旨）

- 1 日 時 平成30年2月21日（水）午後2時～午後3時30分
- 2 場 所 秋田県立図書館 3階 多目的ホール
- 3 出席者
- 委 員 石沢委員、小野崎委員、菊池委員、小松田委員、重原委員、清水委員
関委員、富岡(朝)委員、富岡(美)委員、内藤委員、渡辺委員
- 事務局 教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 成田副主幹
図書館 高橋館長、吉田副館長、京極副館長、中山企画広報班長、
福田図書資料班長、嵯峨情報班長、菅原サービス班長、
工藤総務班長

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 事務局職員紹介
- (4) 図書館長あいさつ
- (5) 会長選任…菊池委員が会長へ選任
- (6) 協議

①秋田県立図書館の事業について〔資料により説明：高橋館長〕

②館内視察

③質疑応答

（発言者：■委員 □事務局）

■ インターネットの貸出予約について、県立図書館では他の人に貸し出されている本のみが予約可能となっているが、秋田市立図書館のように貸し出されていない本であっても貸出予約ができないものか。

□ 県立図書館では、他の人に貸出中の図書・雑誌に限ってインターネットでの貸出予約を行っている。市町村図書館とは違い、県立図書館は県民の皆様への貸出をしなくてはならないため、近くの市町村図書館を経由して鹿角や雄勝の方にも同じように貸出している。市町村図書館からは、貸し出しされていない本について、毎日60～70冊程の予約をいただいているが、開館前までの時間内で職員が予約本を確保しなくてはならず、個人での予約はご遠慮いただいている。

個人からの要望については電話対応で可能としているので、ご理解いただきたい。

■ デジタル化を目指している冊数がどれくらいあり、その進捗状況はどの程度か。
また、デジタル化の費用は図書館予算のどの位の割合を占めるのか。

□ 職員にはデジタル化をするための技術が無いため、外部へ委託している状況である。過去に作成したものは4万点程あるが、現在はアップロードするサーバーの容量が不足している。来年度はサーバーが更新されるため、その後アップロードしていきたい。何点アップロードするのかは未定である。

■ 「漫画が語る戦争」がジュニアコーナーにあるが、内容からジュニアコーナーは相応しくないと感じた。また、逆にシニアコーナーにある「ペコロスの母」はジュニアコーナー向きと思う。感想です。

■ 図書館は静かなところであるのは分かるが、あまりに静かなため集中力が切れることもある。BGMを流すことも良いのではないかと思います。感想です。

■ 市町村図書館からすると、県立図書館の本は大変有り難く、各学校でも大いに活用させていただきたいと思っている。また司書資格を持っていない職員も多く、出前講座などで勉強させたい。今後ともよろしくお願いします。

■ 日中の利用者の年齢層が高い割には、若い人向けの小説が多く、年齢層の高い人向けのは少ないようなので、もう少し考えてもらえないものかなとボランティア仲間で話題になる。

スロープにはオリンピックの新聞記事を展示している。折角なので本日出席の委員にも見ていただけたらと思う。

■ 館長から閲覧室のスタッフが少なくなっているとの説明であったが、県の配置の問題なのか、希望者が減っているものなのか。

絵本に興味があるが、「えほんのへや」に大人が入るのには抵抗がある。別のコーナーにも絵本があれば大人も読みやすいと思う。

■ 支援員として「えほんのへや」に居るが、大人でも入れるし、孫のために絵本を借りていく人もいる。大人も多く来るので遠慮しなくても良い。

また、今日は休館日のため静かであるが、普段は子ども達も来ており、それほど静かな図書館という印象はない。

□ 職員の人数に関しては、図書館に限らず、他の県の機関でも減ってきており、特に学校職員はかなり減少してきている。少子化による国の交付税減少の影響がある。職員数は減ってもサービスの質は落とさないように努めていきたい。

(7) その他

(8) 閉会